

計報

大正十三年度  
 北村友次郎 住所兵庫縣武庫郡中東村長上字新田二ノ六  
 林 文平 住所東京市麻布區宮前町八  
 大正十四年度  
 廣山 一郎 住所札幌市江別町字上江別二七八  
 大正十五年度  
 伊藤 興一 住所四日市西町三〇六番地  
 安藤 隆次 住所水戸市粉塚町一丁目  
 昭和二年  
 金巻 賢三 住所東京市中野區住吉町九  
 依々木 重臣 住所東京市滝橋區東京市立火久保病院産婦人科  
 昭和三年  
 松尾 米生 住所岩内縣住野町町内  
 所野 町内鐵道會  
 佐竹 繁雄 住所福岡市橋口町八六日本生命保險會社  
 岡田 文雄 住所大板市東區今橋三丁目三和銀行本店  
 昭和四年  
 長野 潤二 住所東京市酒橋區銀座七丁目大日本麥酒株式會社營業部 住所東京市酒橋區伊達町一  
 池田 宣彌 住所東京市東區町一六平洋合同鐵道株式會社出賃所  
 青原 孝次 住所東京市中野區橋本町四  
 飯田 三郎 住所大板市東區北區東區會社營業部  
 北海 鐵道會社株式會社營業部 住所神戶市東區上筒井通七丁目八八  
 大正六年度  
 小池 省三 住所神戶市神戶區西區西區町一四〇番地  
 渡邊 金之助 住所東京市東區見國生表町市營地立第三地區帝國ニヒレム鋼管株式會社營業部  
 大正七年度  
 依藤 國松 住所札幌市南區小田原町  
 小田 昌 住所北海道札幌市南區南區町  
 大正九年度  
 飯塚 善彌 住所東京市東區區大板町二丁目五合資會社  
 南本 町二丁目五合資會社  
 深山 尚哉 住所朝成鐵道北道支社  
 道吉 州 住所北海道札幌市南區南區町  
 製紙化學工業株式會社  
 福士 吉郎 住所神戶市東區上筒井通二丁目神戶商大附屬寄宿舎  
 大正十年度  
 山崎 吉郎 住所北海道北區町一丁目二番地十八號  
 山口 春生 住所大板市東區南本町二丁目五合資會社  
 大正十一年度  
 秋山 尚哉 住所朝成鐵道北道支社  
 道吉 州 住所北海道札幌市南區南區町  
 製紙化學工業株式會社  
 福士 吉郎 住所神戶市東區上筒井通二丁目神戶商大附屬寄宿舎  
 大正十二年度  
 山下 春雄 住所同上  
 土屋 龍平 住所同上  
 鈴木 弘一 住所北海道鐵道公主嶺線 住所浦河公主嶺浦河二丁目  
 山口 恒四郎 住所大板市心齋橋株式會社十合  
 住所大板市西區南海通二丁目二米山方  
 田中 三郎 住所東京商科大學 住所東京市外宮前寺一八八一水澤方  
 大正十三年度  
 彌川 源作 住所大板市登能郡登能町新丸八三七  
 秋山 尚哉 住所東京市下京區四條九角三井銀行京都支店 住所京都上京區小山西池町二〇  
 山崎 三三 住所東京市神田區神保町三丁目小澤藥局三階 住所東京市大森區池上本町二三一

舊職員

大正十三年度  
 北村友次郎 住所兵庫縣武庫郡中東村長上字新田二ノ六  
 林 文平 住所東京市麻布區宮前町八  
 大正十四年度  
 廣山 一郎 住所札幌市江別町字上江別二七八  
 大正十五年度  
 伊藤 興一 住所四日市西町三〇六番地  
 安藤 隆次 住所水戸市粉塚町一丁目  
 昭和二年  
 金巻 賢三 住所東京市中野區住吉町九  
 依々木 重臣 住所東京市滝橋區東京市立火久保病院産婦人科  
 昭和三年  
 松尾 米生 住所岩内縣住野町町内  
 所野 町内鐵道會  
 佐竹 繁雄 住所福岡市橋口町八六日本生命保險會社  
 岡田 文雄 住所大板市東區今橋三丁目三和銀行本店  
 昭和四年  
 長野 潤二 住所東京市酒橋區銀座七丁目大日本麥酒株式會社營業部 住所東京市酒橋區伊達町一  
 池田 宣彌 住所東京市東區町一六平洋合同鐵道株式會社出賃所  
 青原 孝次 住所東京市中野區橋本町四  
 飯田 三郎 住所大板市東區北區東區會社營業部  
 北海 鐵道會社株式會社營業部 住所神戶市東區上筒井通七丁目八八  
 大正六年度  
 小池 省三 住所神戶市神戶區西區西區町一四〇番地  
 渡邊 金之助 住所東京市東區見國生表町市營地立第三地區帝國ニヒレム鋼管株式會社營業部  
 大正七年度  
 依藤 國松 住所札幌市南區小田原町  
 小田 昌 住所北海道札幌市南區南區町  
 大正九年度  
 飯塚 善彌 住所東京市東區區大板町二丁目五合資會社  
 南本 町二丁目五合資會社  
 深山 尚哉 住所朝成鐵道北道支社  
 道吉 州 住所北海道札幌市南區南區町  
 製紙化學工業株式會社  
 福士 吉郎 住所神戶市東區上筒井通二丁目神戶商大附屬寄宿舎  
 大正十年度  
 山崎 吉郎 住所北海道北區町一丁目二番地十八號  
 山口 春生 住所大板市東區南本町二丁目五合資會社  
 大正十一年度  
 秋山 尚哉 住所朝成鐵道北道支社  
 道吉 州 住所北海道札幌市南區南區町  
 製紙化學工業株式會社  
 福士 吉郎 住所神戶市東區上筒井通二丁目神戶商大附屬寄宿舎  
 大正十二年度  
 山下 春雄 住所同上  
 土屋 龍平 住所同上  
 鈴木 弘一 住所北海道鐵道公主嶺線 住所浦河公主嶺浦河二丁目  
 山口 恒四郎 住所大板市心齋橋株式會社十合  
 住所大板市西區南海通二丁目二米山方  
 田中 三郎 住所東京商科大學 住所東京市外宮前寺一八八一水澤方  
 大正十三年度  
 彌川 源作 住所大板市登能郡登能町新丸八三七  
 秋山 尚哉 住所東京市下京區四條九角三井銀行京都支店 住所京都上京區小山西池町二〇  
 山崎 三三 住所東京市神田區神保町三丁目小澤藥局三階 住所東京市大森區池上本町二三一

大正十三年度

南道興南邑朝室社四區二五  
 一番戸 住所北海道津浦郡津浦村津浦三三三番地  
 浦久五郎方  
 名畑 政雄 住所札幌市南區西七丁目  
 櫻庭 康次 住所南前市津町二〇北海道農業會社  
 青木 三三 住所高根郡津川郡津川町高根町中田宮藥學校 住所津川市津町二八二  
 須藤 一郎 住所札幌市南區西四十二丁目  
 伊賀 喜三 住所東京市大森區馬込町二丁目一〇二五  
 坂本 敏雄 住所小樽市山田町二四  
 昭和八年  
 河村 啓一 住所岩内縣米町一〇四四株式會社北海道農商店街工務  
 永井 久 住所旭川市宮下通十八日右零號  
 中津 正之 住所帶廣市豐原街務署 住所廣市西一條四丁目一四加藤方  
 渡邊 潤二 住所東京市九ノ内一八日本興業銀行橋本支店  
 共立株式會社 住所東京市吉原寺二九一四  
 昭和九年  
 小池 省三 住所神戶市東區西區西區町一四〇番地  
 渡邊 金之助 住所東京市東區見國生表町市營地立第三地區帝國ニヒレム鋼管株式會社營業部  
 大正六年度  
 小池 省三 住所神戶市神戶區西區西區町一四〇番地  
 渡邊 金之助 住所東京市東區見國生表町市營地立第三地區帝國ニヒレム鋼管株式會社營業部  
 大正七年度  
 依藤 國松 住所札幌市南區小田原町  
 小田 昌 住所北海道札幌市南區南區町  
 大正九年度  
 飯塚 善彌 住所東京市東區區大板町二丁目五合資會社  
 南本 町二丁目五合資會社  
 深山 尚哉 住所朝成鐵道北道支社  
 道吉 州 住所北海道札幌市南區南區町  
 製紙化學工業株式會社  
 福士 吉郎 住所神戶市東區上筒井通二丁目神戶商大附屬寄宿舎  
 大正十年度  
 山崎 吉郎 住所北海道北區町一丁目二番地十八號  
 山口 春生 住所大板市東區南本町二丁目五合資會社  
 大正十一年度  
 秋山 尚哉 住所朝成鐵道北道支社  
 道吉 州 住所北海道札幌市南區南區町  
 製紙化學工業株式會社  
 福士 吉郎 住所神戶市東區上筒井通二丁目神戶商大附屬寄宿舎  
 大正十二年度  
 山下 春雄 住所同上  
 土屋 龍平 住所同上  
 鈴木 弘一 住所北海道鐵道公主嶺線 住所浦河公主嶺浦河二丁目  
 山口 恒四郎 住所大板市心齋橋株式會社十合  
 住所大板市西區南海通二丁目二米山方  
 田中 三郎 住所東京商科大學 住所東京市外宮前寺一八八一水澤方  
 大正十三年度  
 彌川 源作 住所大板市登能郡登能町新丸八三七  
 秋山 尚哉 住所東京市下京區四條九角三井銀行京都支店 住所京都上京區小山西池町二〇  
 山崎 三三 住所東京市神田區神保町三丁目小澤藥局三階 住所東京市大森區池上本町二三一

昭和十一年度

南道興南邑朝室社四區二五  
 一番戸 住所北海道津浦郡津浦村津浦三三三番地  
 浦久五郎方  
 名畑 政雄 住所札幌市南區西七丁目  
 櫻庭 康次 住所南前市津町二〇北海道農業會社  
 青木 三三 住所高根郡津川郡津川町高根町中田宮藥學校 住所津川市津町二八二  
 須藤 一郎 住所札幌市南區西四十二丁目  
 伊賀 喜三 住所東京市大森區馬込町二丁目一〇二五  
 坂本 敏雄 住所小樽市山田町二四  
 昭和八年  
 河村 啓一 住所岩内縣米町一〇四四株式會社北海道農商店街工務  
 永井 久 住所旭川市宮下通十八日右零號  
 中津 正之 住所帶廣市豐原街務署 住所廣市西一條四丁目一四加藤方  
 渡邊 潤二 住所東京市九ノ内一八日本興業銀行橋本支店  
 共立株式會社 住所東京市吉原寺二九一四  
 昭和九年  
 小池 省三 住所神戶市東區西區西區町一四〇番地  
 渡邊 金之助 住所東京市東區見國生表町市營地立第三地區帝國ニヒレム鋼管株式會社營業部  
 大正六年度  
 小池 省三 住所神戶市神戶區西區西區町一四〇番地  
 渡邊 金之助 住所東京市東區見國生表町市營地立第三地區帝國ニヒレム鋼管株式會社營業部  
 大正七年度  
 依藤 國松 住所札幌市南區小田原町  
 小田 昌 住所北海道札幌市南區南區町  
 大正九年度  
 飯塚 善彌 住所東京市東區區大板町二丁目五合資會社  
 南本 町二丁目五合資會社  
 深山 尚哉 住所朝成鐵道北道支社  
 道吉 州 住所北海道札幌市南區南區町  
 製紙化學工業株式會社  
 福士 吉郎 住所神戶市東區上筒井通二丁目神戶商大附屬寄宿舎  
 大正十年度  
 山崎 吉郎 住所北海道北區町一丁目二番地十八號  
 山口 春生 住所大板市東區南本町二丁目五合資會社  
 大正十一年度  
 秋山 尚哉 住所朝成鐵道北道支社  
 道吉 州 住所北海道札幌市南區南區町  
 製紙化學工業株式會社  
 福士 吉郎 住所神戶市東區上筒井通二丁目神戶商大附屬寄宿舎  
 大正十二年度  
 山下 春雄 住所同上  
 土屋 龍平 住所同上  
 鈴木 弘一 住所北海道鐵道公主嶺線 住所浦河公主嶺浦河二丁目  
 山口 恒四郎 住所大板市心齋橋株式會社十合  
 住所大板市西區南海通二丁目二米山方  
 田中 三郎 住所東京商科大學 住所東京市外宮前寺一八八一水澤方  
 大正十三年度  
 彌川 源作 住所大板市登能郡登能町新丸八三七  
 秋山 尚哉 住所東京市下京區四條九角三井銀行京都支店 住所京都上京區小山西池町二〇  
 山崎 三三 住所東京市神田區神保町三丁目小澤藥局三階 住所東京市大森區池上本町二三一

重要産業統制の回顧と展望

重要産業統制の回顧と展望 教授 室谷賢治郎

昭和六年法律第四十號を以て公布された重要産業統制法は、其の附則に示された五年の施行期を本年八月に満了した。...

然るに此の場合の統制は重大な結果を齎した。...

次に法律適用の区域は内地に限定され、...

然るに此の場合の統制は重大な結果を齎した。...

然るに此の場合の統制は重大な結果を齎した。...

然るに此の場合の統制は重大な結果を齎した。...

然るに此の場合の統制は重大な結果を齎した。...

學生生活と試験

學生生活と試験 教授 井上紫電

試験は一般の學生生活の中心をなすものである。...

試験は一般の學生生活の中心をなすものである。...

試験は一般の學生生活の中心をなすものである。...

試験は一般の學生生活の中心をなすものである。...

試験は一般の學生生活の中心をなすものである。...

試験は一般の學生生活の中心をなすものである。...

試験は一般の學生生活の中心をなすものである。...

中立貨幣

中立貨幣 佐藤文四郎

中立貨幣とは、金貨と紙貨とを区別せず、...

中立貨幣とは、金貨と紙貨とを区別せず、...

中立貨幣とは、金貨と紙貨とを区別せず、...

中立貨幣とは、金貨と紙貨とを区別せず、...

中立貨幣とは、金貨と紙貨とを区別せず、...

中立貨幣とは、金貨と紙貨とを区別せず、...

中立貨幣とは、金貨と紙貨とを区別せず、...

中立貨幣

中立貨幣 佐藤文四郎

中立貨幣とは、金貨と紙貨とを区別せず、...

中立貨幣とは、金貨と紙貨とを区別せず、...

中立貨幣とは、金貨と紙貨とを区別せず、...

中立貨幣とは、金貨と紙貨とを区別せず、...

中立貨幣とは、金貨と紙貨とを区別せず、...

中立貨幣とは、金貨と紙貨とを区別せず、...

中立貨幣とは、金貨と紙貨とを区別せず、...

中立貨幣

中立貨幣 佐藤文四郎

中立貨幣とは、金貨と紙貨とを区別せず、...

中立貨幣とは、金貨と紙貨とを区別せず、...

中立貨幣とは、金貨と紙貨とを区別せず、...

中立貨幣とは、金貨と紙貨とを区別せず、...

中立貨幣とは、金貨と紙貨とを区別せず、...

中立貨幣とは、金貨と紙貨とを区別せず、...

中立貨幣とは、金貨と紙貨とを区別せず、...



上机三第 [19] 郎三亮南

國立日記

國立日記 (その二) 一月二十五日 土曜。雪が降り、...

國立日記 (その二) 一月二十五日 土曜。雪が降り、...

國立日記 (その二) 一月二十五日 土曜。雪が降り、...

國立日記 (その二) 一月二十五日 土曜。雪が降り、...

國立日記 (その二) 一月二十五日 土曜。雪が降り、...



上机三第 [19] 郎三亮南

國立日記 (その二) 一月二十五日 土曜。雪が降り、...

國立日記 (その二) 一月二十五日 土曜。雪が降り、...

國立日記 (その二) 一月二十五日 土曜。雪が降り、...

出 張 四月十九日 東京 四月二十日 東京 四月二十一日 東京...





新緑丘人を 迎へて

新緑丘人は、何れもあれ先づ、新緑丘に入門して、その生活を共にせよ。...

新緑丘の生活は、何れもあれ先づ、新緑丘に入門して、その生活を共にせよ。...

オリムピックに善戦の 我等が宮島選手



御挨拶 (高橋、野口正二)

オリムピック大会に代表された宮島選手は、善戦の結果、銀銅の二個を獲得した。...

重責を帯びて新團長 濱井清一君に決定す

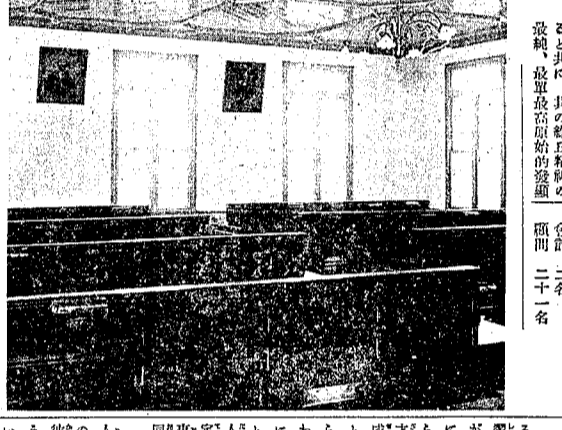
新緑丘の團長に濱井清一君が選出された。彼は多大の責任を帯びてこの職に就くことになった。...

高橋次郎教授最近の消息

高橋次郎教授は、最近の消息が、彼が欧州に旅行し、最新の教育事情を調査したことが知られている。...



欧州に旅行した高橋次郎教授の消息。彼は、最新の教育事情を調査し、その結果を報告した。...



出席者数制について 濱生之助

出席者数制について。濱生之助の意見として、出席者数制の導入は、教育の質を向上させるために必要である。...

懸賞論文募集

懸賞論文募集。本会では、教育の発展を促進するため、懸賞論文を募集している。...

故福光君追悼 漫書展

故福光君追悼漫書展。福光君の業績を追悼し、その功績を後世に伝えるための漫書展を開催する。...

第一回理事會開かる

第一回理事會開かる。本会の第一回理事會議が、先日開催された。...

昭和三十九年度 校友會決算報告

Financial table showing school alumni association results for the 39th year. Includes columns for income and expenditure.

伸び行く學の殿堂 図書館内部改造。図書館の内部が改装され、より開放的で学問の殿堂として生まれ変わった。...

學問分化の弊を救はんと 教授間に研究發表會 第一回發表行はる。教授間の研究発表会が第一回開催された。...

緑丘 マーキエリ。緑丘のマーキエリに関する情報やニュース。...

ほつと一息! 微笑の顔、不安の顔、つとほつと一息。張りつめた心をゆるめて。...

Small financial table or list of items related to the school's activities.

Summary table for school activities, listing various departments and their respective figures.

アルベルグより。アルベルグからのメッセージや報告。...

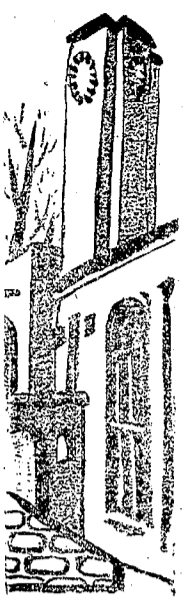
出席者数制について。出席者数制の導入に関する議論や意見。...

故福光君追悼。故福光君の追悼文や追悼会に関する情報。...

第一回理事會開かる。第一回理事會議の開催に関する詳細情報。...

Table of contents or index for the magazine section.





種々の世相 中野清一

ある種々の世相... 青年と少壯と... 青年の世相... 少壯の世相... 老年の世相...

モスコの一夜... 五月二日... 舞臺上の情景... 観客の反応...



トッキーの音... (CHAGA)... 音の響き... 舞台の雰囲気...

生の戀愛論 青木時男... 恋愛の本質... 愛の定義...

断傷男A・B・C・D... 断傷の理由... 恋愛の失敗...

パチルス要求... パチルスの理想... 恋愛の条件...

同窓會員二告... 同窓會本部... 同窓會の活動...

同窓諸賢殿... 同窓會のお願い... 同窓會の発展...

同窓諸賢殿... 同窓會のお願い... 同窓會の発展...

同窓諸賢殿... 同窓會のお願い... 同窓會の発展...

同窓諸賢殿... 同窓會のお願い... 同窓會の発展...

同窓諸賢殿... 同窓會のお願い... 同窓會の発展...

同窓諸賢殿... 同窓會のお願い... 同窓會の発展...

同窓諸賢殿... 同窓會のお願い... 同窓會の発展...

同窓諸賢殿... 同窓會のお願い... 同窓會の発展...

同窓諸賢殿... 同窓會のお願い... 同窓會の発展...

同窓諸賢殿... 同窓會のお願い... 同窓會の発展...

同窓諸賢殿... 同窓會のお願い... 同窓會の発展...

同窓諸賢殿... 同窓會のお願い... 同窓會の発展...

同窓諸賢殿... 同窓會のお願い... 同窓會の発展...

同窓諸賢殿... 同窓會のお願い... 同窓會の発展...

同窓諸賢殿... 同窓會のお願い... 同窓會の発展...

同窓諸賢殿... 同窓會のお願い... 同窓會の発展...

同窓諸賢殿... 同窓會のお願い... 同窓會の発展...

同窓諸賢殿... 同窓會のお願い... 同窓會の発展...

同窓諸賢殿... 同窓會のお願い... 同窓會の発展...

同窓諸賢殿... 同窓會のお願い... 同窓會の発展...

同窓諸賢殿... 同窓會のお願い... 同窓會の発展...

同窓諸賢殿... 同窓會のお願い... 同窓會の発展...

MEMORIES

By Mr. Daniels

"Begin at the beginning, go on till you come to the end; then stop." These are no doubt very good directions for the story-teller, but the trouble is to know what is the beginning. Perhaps my first impression of Hokkaido is as good a starting-point as any other, and that was:— that the trains were a little cleaner and the attendants a little smarter than they are in other parts of Japan. And that is high praise, because Japanese trains are always quite good.

I don't think the scenery on the way from Hakodate to Otaru had any great effect on me. The journey across America to Los Angeles and the day in Hawaii had perhaps made me proof against the effect of scenery. Otaru station, I remember, seemed to have an enormously long platform— this was before the present concrete building was in existence—and I got the idea that Otaru must be a bigger place than I had imagined. I found this to be true; I am still sometimes surprised at finding a new part of the city hidden away in a fold between the hills. Otaru seems to have been poured down near the harbour and then to have flowed out in long snaky arms into every depression between the hills round it. But these arms do not go far, but are brought to an end on the sides of the ever-rising ground which forms itself at last into the semi-circle of mountains standing guard all round. The city itself is not beautiful, but its setting is magnificent; and the position of the school, high up behind the city, is magnificent too. There must be very few schools in the world with a view such as one gets over the town and harbour from the edge of the school campus.

I can say quite truly that I have had a very happy time here. Students and teachers alike have been generally very good people to work with. I have not had experience of other Japanese schools, but from what others have told me and from my own knowledge of people in other parts of Japan, I have an idea that there is a more general sense of humour, more toleration of the man whose opinions are different from your own, and at the same time more self-reliance, among the students and teachers in this school than there are elsewhere. If I were writing for Englishmen, I would say that you are a little more individualistic than most people in Japan. That is very far from being selfish or egotistic, and I hope you will see what I am trying to say. (Is that clear?)

Well, dear-cut memories of events in the school won't come up in a form for putting on paper. Faces come before me: the faces of those whose English was specially good, and of some of those whose English was more special than good; the faces of men who stood out from the rest because of some quality of leadership, and the faces of those who had taken on themselves the duty of keeping their class amused. Also there are abstract pictures of classes in my mind. There is the picture of a class working with me—rows of faces full of interest, every man ready to take his part, questions coming from first one and then another; so that teaching was a very good and pleasant thing. And as I am not out to flatter either you or myself, I must say that there is the picture of a class in a different mood, with only the three or four faithful ones giving attention, and heads drooping here and there onto pillowing arms. (Gentlemen! Gentlemen!) And there are pictures of classes in all sorts of moods between these two extremes. There is even the picture of a classroom whose appearance was somewhat strange because of about fifty open umbrellas, hanging from the top of the blackboard, hanging from one another, stuck into cracks in the platform; and there is one of another classroom—but no, such things are not for the ears of authority. On the whole, my generalized picture of a class is of a fairly hard-working collection of young men.

Memories of the rehearsing and dressing and actual production of the two English plays which I had a hand in—last year I was lazy and did nothing—were very vivid. It was noticeable then how good a knowledge of English almost all the students had, when there was need for using it, rather than talking about it or translating out of it; and this was true not only of the actors but of managers and helpers as well.

I might go on in this way, talking of meetings and meals, the sad necessity of giving marks, what a fine library you have, and a hundred and one other things; but I'm sure you've had enough. I am no good at this sort of thing, and the editor is really to blame for asking me to write about my memories. He ought to have remembered that I am the only teacher in the school who is never asked to give a mandarin—never asked twice, that is; I made it a rule to give one mandarin to every class, and one was always enough.

Good-bye and good luck to you all. Some of you at any rate I expect to see again. As soon as I know my future address I will ask the editor to put it in.

神戸商大入學試験問題 (第二類)

論文 (三時間)

(注意) 左記の任意の二題につき論文をなすべし。論文は縦書きにて、各文別々の答案紙に記すべし。(一) 商業經營に於ける資本の調達を論ず。(二) 貯蓄行爲の取極限を論ず。(三) 獨占價格を論ず。

英語 (二時間半)

英文和訳 First, it is evident that modern business, no less than the time-honored professions, requires a preliminary attainment of knowledge, and in some measure of learning, as distinguished from the mere skill that comes from experience. Mr. Justice Brandeis, in an address at Brown University, stated clearly the basis of such an assertion as this when he said:

"The field of knowledge requisite to the more successful conduct of business has been greatly widened by the application to industry not only of chemical, mechanical, and electrical science, but also the new science of management; by the increasing difficulties involved in adjusting the relations of labor to capital; by the necessary intertwining of social with industrial problems; by the ever extending scope of state and federal regulation of business. Indeed, mere size and territorial expansion have compelled the business man to enter upon new and broader fields of knowledge in order to match his achievements with his opportunities. This new development is tending to make business an applied science."

It is a far cry from the simple shops, small-scale production, and intimate personal apprenticeship relation between men and masters to the present great stores and factories, which involve in their administration intelligent co-operation with laboratories of science, a continuous study of the temper and fundamental aspirations of vast armies of working-men whose content is an asset and whose restlessness is a liability, a knowledge of the changing forces that from time to time determine new adjustments of the relation of business to government, an insight into the currents of international politics that react upon business policies and profit, an understanding of local customs and native psychology in foreign markets, and the thousand and one things that go into the making of the environment in which the policy and practice of a given business must operate. Few, if any, of the recognized professions make as sweeping challenge to the intellectual ability and acquirements of a man as does modern business. In this respect at least business claims fellowship with the professions.

\* a far cry = a long distance.

和文英訳 考へて世界の植民地の分布が、一の國に厚く、他の國に薄く甚だ不公平である。すに植民地の分布が不公平であればそれら出る原料の分布も公平でないのは自然である。この問題が漸く世界の注意をひいた所以である。然しながら植民地の再分割が困難だとすれば、取り敢へず市場と原料の問題について何等かの協定に到達する方向に動くことはなからうかと思ふ。領土を得る目的は何かといへば、(1) 原料を欲し、(2) 製品を賣却する市場を欲し、この二つに歸する。それなら何も植民地の地圖の色を變更する必要はないのである。原料は如何なる場合に於ても必要なる國家に供給されるべきで、植民地市場に關つて如何なる協定にも關せずの障礙を設ける事といふ保障を國際的にすればよいのである。

簿記及比會計 (三時間)

(第一問) 「トラス」又「コンツエルン」に於ける關係者ト貸借對照表ト綜合テ解釋セシメ。 (第二問) 下記ノ綜合簿ト任課日報帳一冊ナリ。該二載セル仕簿ヲ吟味シ、若シ誤謬又ハ脱漏アルトキハ之ヲ訂正補充シ併セテ其ノ理由ヲ説明セシメ。 (仕簿日帳帳目は紙面の都合上省略)

東京商大入學試験問題

【英語】

(1) Give, in Japanese, a general idea of the following, with fuller comments (separately) on the underlined passages: The world is in need of two types of men that it does not have in great abundance: those who are experts in technique, (1) who contribute the ninety-five per cent. of perspiration necessary to carry on well the world's work, and the inspired five per cent. who are possessed of broad enough vision to see what there is to do. It is the latter who anticipate most of possibilities and troubles of humanity, and in this group the philosopher should be found. And the philosopher has functioned in the past, and can still best contribute his share, by directing human efforts through the channels that a useful memory and a far-reaching imagination alone can discover or construct. And when we in this practical age insist that the philosopher come down from the clouds and the mountain tops, (2) it is not necessary that he lose his sense of direction in the market place. (3) Granted that the demand-to-day is that philosophy keep its feet on the ground, it need not, says Professor Patrick, put its head there also. Relative values must so be conserved as still to effect the main purpose of philosophy: to introduce deliberation, breadth of view, and productive insight into human problems so that finally (4) we may have "life and that more abundantly". Every one is bound to be a philosopher more or less. It should be the concern of every one that (5) the emphasis be on the "more" rather than on the "less". (2) Discuss in English the new significance of commerce in the world to-day. Use not more than 150 words. N.B. Answer each question on a separate sheet of paper.

【簿記】

(1) 特殊仕票帳使用の諸重複記入を省くべき取極限の種類を挙げ、之を避くべき方法に就き説明せよ。(2) 本支店合併貸借對照表作成に當り相殺を要すべき諸科目を挙げ、其の方法に就き説明せよ。(3) 工場元帳(Factory Ledger)につき次の諸項を答ふべし。(1) 如何なる場合又は如何なる目的により此の元帳を使用するや。(2) 此の元帳に設定する、勘定科目を示せよ。(3) 此の元帳を獨立(Self balancing ledger)せしむる手段如何(4) 次の各場合に於ける此の元帳と總勘定元帳とに於ける如何なる仕對關係の下に記帳せらるや。(1) 工場元帳を新設し、關係科目を總勘定元帳より分離したる時(2) 原料を掛にて購入し工場に引渡したる時(3) 工場にて原料を生産し消費したる時(4) 工場に積物及機械に減價償却を行はる時(5) 製品が販賣されたる時(3) 手形交換所に於ける持出形及び受入手形(持戻手形)の不備の場合に於ける記帳關係を例示説明すべし(銀行簿記)。(4) 次の傳票を作成せしめたる取引を推定し、これを説明すべし(銀行簿記)。

Table with financial data including interest rates and exchange rates. Columns include '振替', '傳票', '借入', '貸出' and various monetary values.

【論文】

左記の題中より二題を選択して日本語にて記すべし。但し同類中の二題を選ばず。(一) 商業經營に於ける資本の調達を論ず。(二) 貯蓄行爲の取極限を論ず。(三) 獨占價格を論ず。(四) 最近世界貿易の趨勢を論ず(交通商政策に及ぼすインフレーションと景氣變動との關係を論ず)。(五) 契約自由の原則を論ず。(六) 法律學と青年の興味とを論ず。(七) 海島國家と内陸國家との政治的地位を論ず。(八) 生命の哲學の概観と其批判(4)は出題者は一は増地助教授、二は加藤助教授、三は山口助教授、四は猪谷助教授、五は中助教授、六は田中助教授、七は米谷助教授、八は村松助教授、九は吹田助教授である。四と六又は五と六を選んだ者が多数の類である。

【獨逸語】

次の二文を和訳せよ (1) Der Krieg ist der Vater aller Dinge, das war das Endergebnis der griechischen Weltweisheit. Er ist der Vater auch des Staates. Der Krieg hat den Staat erzeugt. Der Staat ist die Organisation des Volkes zu machtvoller Verteidigung, zur Entfaltung der nationalen Kraft. Damit das Volk mächtig sei, sich jedes Gegners zu erwehren, zum Angriff und zur Verteidigung, dazu ist der Staat da, und dadurch ist er entstanden. Die Heeresordnung ward zur Rechtsordnung, das Heerkommando zur Regierungsgewalt, der Heeressene, der Kammerer zur Rechtsperson und die Kriegskolonne zum Eigentum. (2) Der Deutsche ist überhaupt unendlich lernbegierig; er nimmt auf, was er bekommen kann; er ist auf geistigem Gebiet ein Allesfresser und eine Sammlerstadt. So hielt er sich auch von jeder Offen für alles Ausländische und Fremde. Der Gedanke der "Weltliteratur" und einer auf der Kenntnis der Weltliteratur beruhenden, "Universalbildung" ist in Deutschland zuerst entstanden. Wahrscheinlich verfügt keine andere Nation über eine solche gewaltige Masse von Übersetzungen aus den Sprachen aller Völker und aller Zeiten, wie wir... In Leibniz verdichtet sich diese universale Sammelkunst zu einer nicht nur alles wissenden, sondern auch alles durchdringenden und beherrschenden Persönlichkeit, in Ranke und in Hegel tritt sie noch einmal grossartig in die Welt.



同窓會東京支部

故西尾清一氏を弔ふ 同窓會東京支部 阿部芳治

野口正二郎君 歸朝歡迎會

同窓會幹事會 並役員會開催

新入會員歡迎會開催

新入學者氏名

同窓會東京支部 阿部芳治

野口正二郎君 歸朝歡迎會

同窓會幹事會 並役員會開催

新入會員歡迎會開催

新入學者氏名



野口正二郎君 歸朝歡迎會

同窓會幹事會 並役員會開催

新入會員歡迎會開催

新入學者氏名

同窓會東京支部 阿部芳治

野口正二郎君 歸朝歡迎會

同窓會幹事會 並役員會開催

新入會員歡迎會開催

新入學者氏名

同窓會東京支部 阿部芳治

野口正二郎君 歸朝歡迎會

同窓會幹事會 並役員會開催



小樽高等學術研究基金申込口數
商業學校拂込額並二未收入額調
創立廿五周年記念(昭和十一年四月廿五日現在)

Table with columns for recipient names (氏名) and amounts (申込口數). Lists numerous individuals and their respective contribution amounts.

Table with columns for recipient names (氏名) and amounts (申込口數). Lists names such as 山崎正一, 佐藤三郎, etc., with their contribution amounts.

Table with columns for recipient names (氏名) and amounts (申込口數). Lists names such as 田中清一, 鈴木健二, etc., with their contribution amounts.

特別會計決算表
昭和十年十二月三十一日
Table showing financial results for the special account, including income and expenses.

借貸對照表
昭和十年十二月三十一日
Table showing the balance sheet for loans and borrowings.

普通會計收支決算表
昭和十年十二月三十一日
Table showing the general accounting income and expense statement.

報告事項
一、臨時委員會
二、常務委員會
三、研究基金
四、總務會議事項

同窓會總會並
新入會員歡迎會
(昭和十一年三月四日)

一、本會現在會員數
二、集會に関する報告
三、常務委員會
四、臨時委員會

研究基金
總務會議事項
一、研究基金
二、總務會議事項

Table with columns for recipient names (氏名) and amounts (申込口數). Lists names such as 山崎正一, 佐藤三郎, etc., with their contribution amounts.